

# ほっかいどうの社会保障

2010年5月31日

北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

## 激変する政治情勢のもとで、憲法9条25条を守り、社会保障の拡充をすすめよう 北海道社保協第17回定期総会開く

5月29日に第17回定期総会を札幌市菊水ビルで開催しました。

総会には、道内各地の地域社保協や加盟団体から55人が参加して熱心な討議が行われました。

運動方針の提案では、先の総選挙で歴史的な政治の転換が実現し、54年間にわたる自民党政治が終焉を迎えるという激変の年であったとして、一定の要求が実現するたたかいの客観的条件が変化したことと民主党政権の反国民的な政治が明らかになったと強調し、その上で、09年度の北海道社保協のたたかいを振り返り、2010年度方針を提案しました。

2010年度は、参議院選挙といっせいで地方選挙があり、国政・道政の転換点としてとりくむと同時に社会保障の拡充と各課題の改善や要求実現のために力を尽くそうと提起し、以下の5点の重点を確認しました。

- 1) 社会保障の拡充をめざす運動にとりくむこと
- 2) 後期高齢者医療制度のすみやかな廃止を求め、医療保険制度の改悪に反対すること
- 3) 国保・介護などの改善運動や消費税増税を許さない運動をすすめること
- 4) 反貧困のとりくみをすすめること
- 5) 北海道社保協の役割を強め、共同のとりくみをすすめること

討論では、地域社保協、加盟団体から11名が発言しました。

無料低額診療の取り組み（道勤）、反貧困の取り組み（函館・苫小牧社保協、道生連）、介護・障害者・保育の取り組み（福祉保育労、障道協）、NPT・ヒブワクチンなど婦人の取り組み（新婦人）、中小業者の経営実態（北商連）、国保の取り組み（小樽社保協）、母子加算復活（道生連）、社保学校（苫小牧・小樽社保協）などが報告され、総会方針を深める発言となりました。

総会方針案、予算案が全会一致で採択され、最後に新役員体制を選出して閉会しました。



開会挨拶をする黒川会長



北商連 和田さん



北海道勤医協 澤本さん



小樽社保協 佐藤さん



障道協 榛葉さん

## 記念講演は、「家計から考える子どもの貧困」

総会に先立って記念講演が行われました。

北大大学院教育学研究院助教の鳥山まどか先生が、「家計から考える子どもの貧困」と題して、子供を持つ家庭の収入階級別に見た家計収支（食料・住居・光熱水費・保健医療・交通通信・教育など）や子どもの教育にかかるお金などを分析し、そこから見えてくる子どもの貧困について明らかにしました。所得の低い層では、食べることに以前に、住居・光熱水費など生活基盤に家計が縛られている事や負債の中で占める借金の多さなどを指摘。高校生への意識調査では、「親は生活のために無理をしていると感じる」「学費が高くて進学できないと思うことがよくある」が中位校、下位校、定時制になるほど高率になり、小学生の時の進路展望で中卒で就職、高卒で就職など自分の進路を想定する子どもが多いと報告しました。

